



No.3 持続的な生産へ向けたこねぎ栽培技術の向上

- 活動期間 令和2年度～令和3年度
- 対象者名 JA新みやぎ仙台小ねぎ部会（36人）
- 課題の背景
 - ・「仙台小ねぎ」は、部会員36人で約17haを作付けしており、販売額は約3.5億円（R2）で地区の園芸品目において最大の販売額となっている。平均反収は2.7t/10a（R2）であり、3.4t/10aの達成を目指し支援している。
 - ・部会では、継続的に品種試験や施肥改善などの栽培技術の向上を図っており、成績優秀者の表彰を行うなど熱心に生産に取り組んでいる。優秀な熟練生産者の技術をモデル指標として「見える化」し、部会全体へ周知を図ることで、更なる技術向上と安定生産が期待できる。
 - ・近年、土壌病害である萎凋病が収量低下の要因となっており、より効果的な対策が求められている（475t(H28)→460t(H30)→447t(R2)）。
 - ・昨年の活動の中で、土壌物理性の改善が必要なことが分かり、土作りの取組を実施している。

令和3年度

目 標	活動事項	普及活動のポイント
<ul style="list-style-type: none"> ■ 水管理やハウス内環境データの測定・解析により、栽培技術を「見える化」し、部会全体の技術向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 栽培技術の見える化による安定生産技術向上 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「見える化」の取組では、新規生産者1名で昨年データを参考とした栽培管理を行い、土壌水分や気温、湿度等の環境データを測定した。あわせて、熟練生産者1名のデータを継続している。調査結果を解析し、部会主催の研修会等で栽培管理の要点を周知していく。 
<ul style="list-style-type: none"> ■ 病害虫防除及び土壌管理の基礎技術向上により、反収の増加を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 病害虫・土壌環境改善対策等による基礎技術向上支援 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 重点支援対象を選定し、7名のほ場で土壌物理性に着目して現地調査を実施した。 ■ 灌水量および土壌物理性のセルフチェックマニュアルを配布し、部会員の意識向上を図った。 ■ 萎凋病対策として「畝立後太陽熱土壌消毒」の実証ほを設置し、現地検討会で理解を深めた。 

意図する対象の変化（最終年度）

- 熟練生産者の水管理やハウス内環境のデータ測定・解析により、栽培管理技術が見える化され効率的に高品質・安定生産が出来るようになる。
- 病害虫防除及び土壌管理の基礎技術向上がなされ、こねぎの反収が向上する。

数値目標：販売数量 R1年 2.7 → R2年 3.2 → R3年 3.4
(t/10a) (実績 2.7)